

国際がん研究機関 (IARC)による発がん性リスク

Last update 2011年6月

Group	発がん性リスク
Group 1	「発がん性がある」 107因子:アスベスト、カドミウム、アルコール飲料、受動喫煙を含む喫煙など
Group 2A	「発がん性がおそらくある(probably)」 59因子:サーカディアンリズムを乱す交代制勤務、ディーゼルエンジンの排ガスなど
Group 2B	「発がん性があるかもしれない(possibly)」 267因子:携帯電話、ガソリンエンジンの排ガス、鉛など
Group 3	「発がん性が分類できない」 508因子:原油、カフェイン、お茶、ヘアカラーリング、外科インプラント・その他の異物など
Group 4	「発がん性がおそらくない(probably)」 1因子:カプロラクタム(ナイロンの原料)

◆これはWHO (World Health Organization: 世界保健機関) の専門機関である国際がん研究機関 (IARC: International agency for research on cancer) が公表している発がん性リスクの一覧から抜粋したものです。〈参照 <http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>〉

◆発がん性リスクは、リスクの高い順から4つのグループに分類されています。

- グループ 1 発がん性がある (現在、107 因子が該当しています)
- グループ 2A 発がん性がおそらくある (現在、59 因子が該当)
- グループ 2B 発がん性があるかもしれない (現在、267 因子が該当)
- グループ 3 発がん性が分類できない (現在、508 因子が該当)
- グループ 4 発がん性がおそらくない (現在、1 因子が該当)

◆2011年、携帯電話がグループ 2B (発がん性があるかもしれない) と公表され、大きく報道されましたが、交代制勤務はその上位のグループ 2A (発がん性がおそらくある) に位置付けられています。グループ 2A はヒトを対象とした疫学研究での科学的根拠は限定的ですが、動物実験において十分な科学的根拠が認められる場合に適用されます。

◆グループ 1 にはアスベスト、カドミウムなどが入っていますが、交代制勤務は次の段階のグループ 2A に分類されていますので、このことから発がん性リスクはかなり高く位置づけられていることがわかります。なお、グループ 1 はヒトおよび動物実験において発がん性が認められた場合に認定されます。

◆デンマークではこれを受けて 2008 年より元夜勤交代制勤務者の乳がん罹患者に労災認定をしています。